公益財団法人まちみらい千代田 情報紙

NEWS まちみらい

CHIYODA CITY MANAGEMENT FOUNDATION

2022 September

9

Vol. 210

事業紹介

産業まちづくりグループ

産業まちづくりグループでは、「働く」をテーマに企業を活性化し地域社会との良好な関係づくりのお手伝いをしています。その一部を紹介します。

(1) マネージメント・サポートデスクの実施

中小企業が抱える経営上のさまざまな相談を、窓口、電話、メールなどで受け付け、相談内容に応じて、公的機関の助成制度や支援策を紹介・活用し、経営課題の解決に向けたサポートを実施しています。

(2) 専門家等によるサポート

(公財)東京都中小企業振興公社が実施する「専門家派遣事業」、(地独)東京都立産業技術研究センターが実施する「オーダーメイド型技術支援事業」および「依頼試験」を各々採択され実施が完了した企業に対し、利用料金の一部を助成します。

- 「専門家派遣事業」1回:10,000円　助成上限額:80,000円(8回)
- 「オーダーメイド型技術支援事業」1回:10,000円　助成上限額:200,000円(20回)
- 「依頼試験」実費の1/2　助成上限額:30,000円

(3) ビジネス法律相談

自社内に法務担当を置くことができない中小企業において、契約や労務など事業活動中に発生するさまざまな法的対応が必要な相談に対し、的確な対応ができる弁護士によるアドバイスを行います。

(4) 千代田ビジネス大賞の実施

中小企業の成長発展を支援する一環として、経営革新や経営基盤の強化に取り組んでいる中小企業や他の企業の模範となる優れた中小企業を「千代田ビジネス大賞」で表彰します。

(5) ビジネス起業塾の開催

経済社会の新陳代謝、経済への活力、新たな雇用の創出などが期待される起業を促進するため、起業を目指す方や起業後間もない事業者に対し、起業に際して必要な知識等を取得し、スムーズに起業できることを目的とした講座を実施します。なお、「ビジネス起業塾」は、千代田区の特定創業支援事業の一つとなっています。

■問 合 せ　産業まちづくりグループ
☎3233-7558　✉biznet@mm-chiyoda.or.jp

お知らせ

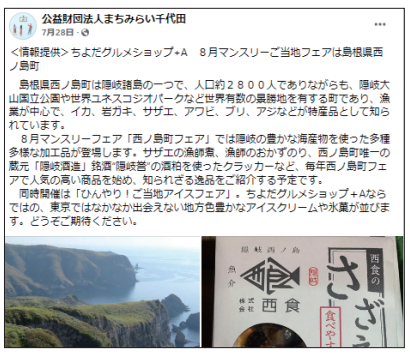
まちみらい千代田SNS紹介

まちみらい千代田では事業周知のための有効なツールとして、各種SNS(Twitter、Facebook)を活用し情報を発信しています。

各種イベント、セミナー情報や千代田区の魅力あふれる写真を投稿してますので、ぜひ一度ご覧ください。

まちみらい千代田 Twitter

まちみらい千代田 Facebook



開催報告

ハイブリッド開催

第47回マンション連絡会を開催します

10月29日(土)、第47回マンション連絡会を開催します。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、試行的に対面とオンラインのハイブリッド形式で開催します。参加を希望する方は、事前にお申し込みが必要です。

※会員の方以外は参加できません。会員の方には、別途詳細をお知らせします

【マンション連絡会員募集】

マンション管理組合の理事長を対象に、マンション連絡会の会員を募集しています。入会希望の方は、まちみらい千代田のウェブページをご覧いただくか、お問い合わせください。

■問 合 せ　住宅まちづくりグループ　☎3233-3223
✉kyojyu@mm-chiyoda.or.jp

お知らせ

千代田まちづくりサポート(まちサポ)イベント予定

千代田まちサポ助成グループのイベントスケジュールをお知らせします。※スケジュールは変更する可能性がありますので、詳細等はお問い合わせ下さい

10月

- 紺屋町の歴史文化を語りながら、藍栽培エリアを街歩き
  「神田藍の会」

11月

- 藍の花まつり(野花を家や街にかざる)**「神田藍の会」**
- タネの収穫体験(翌年のタネどり)**「神田藍の会」**
- あるまっぷCHIYODA(Vol.20)発行**「あるまっぷCHIYODA」**
- 格闘技・スポーツ塾(毎週水曜日午後3時～5時)
  「千代田プロレス＆スポーツカルチャー推進委員会」

12月

- 感謝祭(神田周辺団体との交流・オンラインでもつなぐ)
  「神田藍の会」
- 第1回「五感を駆使し、ボーダーを取り払った、一体感のある」イベント開催**「No Borders ちよだ」**
- 第7回馬と遊び、馬に学ぶ会開催**「番町っこ倶楽部」**
- 格闘技・スポーツ塾(毎週水曜日午後3時～5時)
  「千代田プロレス＆スポーツカルチャー推進委員会」

■問 合 せ　協働まちづくり・総務グループ
☎3233-7556　✉machisapo@mm-chiyoda.or.jp

●編集　公益財団法人まちみらい千代田　〒101-0054 千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階　TEL.3233-7555(代)　FAX.3233-7557　https://www.mm-chiyoda.or.jp

イベント

都心の千代田区で“地方の逸品”に出会える場所
「ちよだグルメショップ＋A」

●10月マンスリーフェア〈10月3日(月)～28日(金)〉

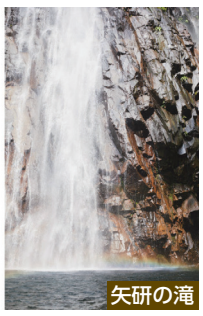
10月マンスリーフェアは、宮崎県都農町と広島県北広島町です。それぞれの地域の逸品にぜひ出会ってください。

宮崎県都農町

都農町は人口約1万人、地域の約63％が山林で、日本の滝百選に選ばれた「矢研の滝」を始め、大小30余りからなる「尾鈴山瀑布群」が分布、豊かな自然を有する地域です。

また、都農町は「農の都」という名のとおり、野菜や果物などの農業が盛んです。地元産ぶどう100％使用した都農ワインは、国内外の数多くの賞を受賞したワインです。都農町の食と都農ワインのマリアージュをお楽しみください。

都農ワイン


矢研の滝

広島県北広島町

北広島町は人口約1.7万人、広島県北西部に位置し、中国山地の1,000メートル級の山々が島根県との県境に連なっており、雄大な自然が広がっている地域です。

また、神楽や田楽などの民俗芸能が息づく町でもあります。北広島町のおすすめは何と言っても「広島レモンサーモン」です。広島県の特産品の一つであるレモンの果汁を混ぜ込んだ餌を食べさせた2kg越えのサーモンの脂は、上品なレモンの香りがする逸品です。

広島レモンサーモン

北広島町の神楽

■問 合 せ　ちよだグルメショップ＋A
☎ 5577-3846（午前中の電話応対はできません）
千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1階

連載

がんばる中小企業 応援リレーコラム

第2回 景気低迷期の中小企業の経営力UP
中小企業診断士　金綱 潤

円安、原油高、賃上げ要請のトリプルトレンドの中、中小企業には一層の経営力UPが求められています。今回は、そうした状況下でも貴社が一歩抜き出た存在になる「簡単に出来る経営力UPのポイント」について解説します。

私は、日頃から売上拡大や経営改善等、具体的な成果創出のために伴走支援しています。そのため、下記のポイントが現下の事業者支援には大変重要と痛感しています。

・円安、原油高、物価高の中でも着実に効果が見込め
・事業者さんの目線から簡単に取り組め
・しかも貴社が同業他社さんより一歩抜き出た存在になりやすい

なぜなら、コロナ禍が長期化しているがゆえに、非対面での新規顧客獲得ニーズがますます重要になっているからです。そしてその方策は、あまりお金を掛けずに貴社の認知度UPにつなげる方向で検討しなくてはなりません。なぜなら、円安、原油高、物価高も重なり、今まで以上に投資には厳格な視点が必要だからです。

ここでは、
①他人の力を上手に利用する
②使い勝手の良い支援施策を活用する
③取引先金融機関とのコミュニケーションを良くして経営力を高める
の3つの観点から具体的に提案します。

全文はこちら!

①は地域に信用力を持つ公的支援機関（例：商工会議所等）を活用した無償の知名度向上支援メニューを活用することです。そのほとんどは、簡易な申請手続で効果が見込めるものが多い特徴があります。

②は区や市の地方自治体独自の補助金も研究して、貴社の広報課題解決に役立てていただきたいということです。コロナ禍、各自治体は国や都・県の補助金施策を良く研究して、より地域の事業者の課題解決に即した施策を用意しています。おおむね採択率が高いのも魅力です。

③多くの地域金融機関ではコロナ禍、多くの事業者への多額の融資を実行しました。そのため、同機関は融資先の事業者の新たな取り組みに一層注目しています。それだけに事業者から取引先金融機関と自社の取り組みを説明する等、緊密なコミュニケーションを図るようにしてみてください。取引先である事業者の経営課題がより明確になれば、地域金融機関の持つネットワーク力を引き出すチャンスが増えます。

以上は新たなお金の支出もほとんどなく、貴方の「よし！やってみよう」と言う簡単な意思決定だけで済む話です。貴社の事業が少しでも早く、成長軌道に乗られること、心からお祈りします。

コラム

マンションよもやま話
ウィズコロナ時代の管理組合運営
マンション管理士　飯田勝啓

新型コロナウィルス感染拡大の「第7波」のさなか、自分が感染することになりました。仕事柄対面の機会が多く、普段から感染には気をつけていたものの、今回は避けられませんでした。

数日前からあった喉のいがらっぽさが痛みに変わり、かかりつけ病院で受診したところ陽性と判定され、私の生活は大きく変わりました。寝具や着替え、生活用品を部屋に持ち込み、自室が隔離病室となりました。家族への感染を避けるため、家族との接触は一切なく、食事は部屋の前に置いてもらい、LINEで連絡を受ける毎日でした。

私の管理組合との関わりにおいて、10日間隔離は支障が大きかったのですが、そこで威力を発揮したのがITツールです。隔離された部屋を一歩も出ることなく、管理組合活動ができたのはITツールあってのこと。もっとも、これは単にITツールの存在だけではなく、管理組合側での受け入れ態勢やIT化の意識があってのことで、つくづく日頃の準備が不可欠だと実感させられました。

管理組合は複数の関係者で運営していくものであり、関係者一人ひとりが他人に感染させない体制は不可欠です。ウィズコロナ時代の管理組合運営において、日頃からITの活用を意識し、準備する必要性を再認識するよい機会になりました。